

岐阜県立可児工業高等学校

学校長 片岡 基靖

学校住所 可児市中恵土 2358-1 電話 0574-62-1185

- 1 **会議の名称** 令和元年度可児工業高等学校 学校評議員会 (第2回)
地域の担い手育成協議会(第2回)合同会議
- 2 **会議の構成** 学校評議員委員
今井 真実 様 元PTA役員
大杉 守平 様 中恵土自治会連合会会長
河村 共久 様 下恵土自治連合会会長
佐合 英巳 様 元PTA役員
渡辺 英幸 様 可児市立図書館長
地域の担い手育成協議委員
前田 伸寿 様 可児商工会議所 事務局長
藤田 幸夫 様 株式会社 甲山製作所 代表取締役社長
西田 豊司 様 KYB株式会社 岐阜南工場 (欠席)
人事本部 人財育成センター 専任課長
(委員名 五十音順)
県教委 野口 晃弘 様 岐阜県教育委員会 学校支援課 指導主事
学校側 片岡 基靖 校長
各務 友浩 教頭
新田 雄一 事務長
水野 茂之 教諭 (教務主任)
柴田 純孝 教諭 (生徒指導部長)
加藤 正康 教諭 (特活部長)
林 貴康 教諭 (進路指導部長)
河合 英光 教諭 (工業部長)
平野 隆英 教諭 (地域の担い手育成事業主任)
小川 英幸 教諭 (地域の担い手育成事業副主任)
- 3 **会議の目的** 岐阜県立可児工業高等学校の教育方針・重点及び学校課題を説明し、幅広い意見・提言を受け本校教育の改善・充実に資するとともに、開かれた魅力ある学校づくりを推進する。
- 4 **会議の開催** 令和2年2月13日(木) 14:00~16:00 可児工業高等学校校長室
学校評議員委員5名、地域の担い手育成協議委員2名、県教育委員会1名
学校側10名、計18名が出席
- 5 **会議の概要**
 - (1) 校長あいさつ
 - (2) 今年度の取り組みと成果について
 - (3) <協議>地域産業の担い手育成総合戦略事業来年度計画について
 - (4) 可児工生 成果報告会の見学
 - (5) 意見交流 (本校教育への提言・意見等)
 - (6) お礼の言葉

6 会議の内容

○意見交流（本校教育への提言・意見等）

「可児工生 成果報告会の感想」

- 委員1：ひとりひとり、全員が平等に役を与えられ説明していたことがすごい。プレゼンテーションもしっかりと作られていてよかった。このような子どもたちの発表の機会があればいいと思った。
- 委員2：聞く側の態度がよく拍手などあって良かった。発表する子も堂々としていた。発表する子どもは、パソコンを使っていて時代を感じた。保護者へのアピールも大事だと思う。工業高校生はこのような事をやっているということ、中学生などに来てもらうか、行くかしてPRするのもいい手ではないか。
- 委員3：体育館では無理があるのではないかと。メモを取っているが、質問が出なかった。聞き取りにくかったのではないかと。場と子どもたちの数などを複合的に考えて実施方法を検討できればいい機会ではなかったか。
- 委員4：毎年いろいろな実践を見させてもらっている。このような発表会を年に1回くらい保護者に対して見せる機会ができたなら良いのではないかと。すごくいいことだと思う。私たちが思いつかないことを子どもたちは勉強している。他の子たちも研究の成果を知ることができる。保護者向けにも是非見せてもらえればとても嬉しい。
- 委員5：子どもたちが全員の前で発表する経験はよい。後輩から質問をされたり答えたりするやり取りが一番大切なことではないかと思う。このような取り組みは初めてだそうだが、よい取り組みである。体育館で複数同時に発表したので声が聞き取りづらかった。教室など個室でできるといいと思った。
- 委員6：製作を始めたきっかけからどのような物を作るか、設計、製作、改善などの過程を発表してくれた。良い作品ができたのではないかと。このような会を保護者の方へも見る機会があるとよいのではないかと。発表の際に後ろに座っている子は半分くらい聞こえていないのではないかと。対応をお願いしたい。
- 委員7：ものづくりの学校なので、もっと保護者へのアピールをしてほしい。せっかくいい物を作っているのに、多くの方に知ってもらえる機会としてほしい。

テーマ1 「可児工への希望者を増やすには」

- 委員3：求人倍率が、他校と比べて県内でも高い。そのようになっているのはなぜかを分析して売りにするべきではないか。
- 委員4：中学校では、3年生が必ず高校へ上がる前に進路説明会がある。どこの高校も毎年一緒の説明をする。中学校の女の子にPRするには、建設工学科、化学技術科だと思う。話を聞くよりも、学校の内容はパンフレットを見てもらい、実験や実践を伝えることが一番良いのではないかと。女の子の受け入れについて、もっとアピールするべきではないか。男の子にも、先輩たちの声をたくさん載せた冊子とかを作るといいのではないかと。地元で就職して生活したいと思う理由は、友達がいたりすることだと思う。友達が可児工業高校に行くんだと聞いたら、僕も、私もといった子が出てくると思う。
- 委員6：工業高校が県内にいくつかあるが工業高校を志望している生徒か、普通校を志望している生徒から引っ張ってこようとしているのか。ターゲットによって募集の仕方も変わるのではないかと。思う。
- 委員7：可児工業高校は人気が高い。頑張っていて活躍してくれる子が多い。OB・OGのおかげだと思う。なかなか地元企業には就職してくれないが、地元企業の社長は、可児工生が欲しいという声が多い。

テーマ2 「地元就職を増やすためには」

- 委員1：長男は、東京へ行きたいといったとき、送り出した。求人票をみて福利厚生・組合がある企業に親としてはいかせたいと親は言ってしまう。地元企業がそういうところが整備されると、就職しやすい。魅力のある友だちが地元に残れば、地元にも残るのではないか。
- 委員2：自分が就職するとき給料、福利厚生をみた。求人票をみても地元でもいい会社はいっぱいある。アピールは必要だが、子どもたちにとって難しい。地元の企業と交流する中で、可児工業高校生を知ってもらい、逆に企業を知ってもらおう。半ば強制で行けるようなフェアなどあればいいのではないか。工業団地に近いので見学に行ってみるのが一番いいのではないか。
- 委員3：知る・体験することが大事なので、企業フェアに半ば強制的に参加させるのはいいことだと思う。迷っている段階では、子どもたちに決めさせるのは難しいので、保護者の方から子どもに勧める。また、保護者の方向けに説明会をした方が効果的であるような気がした。
- 委員4：市の魅力フェア、商工会議所の産業フェアと開催されているが、本人が決めきれない。保護者が最終判断することになると、そのため名前が通った企業に就職してしまう。地域の企業の良さが本人、保護者にも伝わらない。保護者、子どもたちは、福利厚生・給料・休みを選択の基準として見られるので、そういう部分を地元企業側はPRしていただければと思う。
- 委員5：可児市長も地元にと伝えてくれていただけ。私は就職を決めるとき名古屋に行きたかったが、両親が地元に残ってと言われたから残った。保護者が子どもに地元に残ってほしいと言っていたきたい。